

『Hometown―幸福な王子より―』

登場人物

お髭の議員たち

議員 1

議員 2

議員 3

議員 4

議員 5

議員 6

王子

ツバメ

母ツバメ

父ツバメ

初老

婦人

往路

帰路

臨月

1 Meeting

パリッとした燕尾服を着た、
たくさん議員たちがやってくる。
みんな、博士みたいな口髭をつけて。

議員1 町を作りましょう。

議員2 町ですか。

議員1 町です。

議員3 どんな町にしますか。

いたがき議員4 はい。

議員たち はい。

議員4 住みやすい町。

議員たち もちろん！

議員5 はい。

議員たち はい。

議員5 緑もお金も豊かな町。

議員たち 賛成！

議員6 はい。

議員たち はい。

議員6 みんなに優しい町。

議員たち 納得！

議員1 はい。

議員たち はい。

議員1 幸福な町。

議員たち （割れんばかりの拍手）

議員2 しかしどうやって？

議員3 たしかにどうやって、

議員4 作るんでしょうか、その、

議員5 住みやすく緑もお金も豊かでみんなに優しい幸福な町……？

議員1 議論の余地、大いにあり。

ケンケンガクガク。

議論をする。

みんな口々に、

「ケンケン」

「ガクガク」

議員2 いやはやまとまりませんな。

「ケンケン」

「ガクガク」

議員3 いやはや困りましたな。

「ケンケン」

「ガクガク」

議員4 いやはやこれでは埒があきませんな。

「ケンケン」

「ガクガク」

議員5 もういつそ町を作るのはやめてはいかがかな。

「ケンケン」

「ガクガク」

議員1 いいですか、諸君！ 最も大事なことは、

議員たち 大事なことは！？

議員1 イメージです。

議員たち イ・メエイジ！

議員1 幸福な町であるという、イメージ！

議員たち イ・メエイジ！

議員1 イメージ！

議員たち イ・メエイジ！

議員1 イメージ！

議員たち イ・メエイジ！

議員1 イメージ！

議員たち、盛り上がってイメージコール。

イメージ！

イ・メエイジ！

イメージ！

イ・メエイジ！

イメージ！

イ・メエイジ！

音楽が聞こえてくる。

2 王子

『まちのマーチ』

♪ まち
そら
やま
かわ
イッチ
ニイ
イッチ
ニイ
♪ みち
くも
はな
むし
イッチ
ニイ
イッチ
ニイ
♪ おはよう
こにちわ
こんばんは
さよなら
おやすみ
またあした
♪ まち
ひと

まち
ひと
イッチ
ニイ
イッチ
ニイ
♪
イッチ
ニイ
イッチ
♪
ニイ
イッチ
ニイ
イッチ
♪
ニイ
イッチ
ニイ

お歌が歌われている間、

お髭の議員たちは、せっせと町を作る。

町のど真ん中に一つの大きな柱の上に、
像が立っている柱には、
一体の銅像を置いた。

『幸福な王子』という文字が、

議員たちによって書き込まれた。

お髭の議員たち、拍手。

満足して家に帰っていく。

あとにはポツンと王子だけ。

足元にある町を見下ろして。

王子
そういうわけで。

王子
この町が出来た時から僕はずっとここにいます。

王子 あっ！

王子 という間に時間は過ぎていきます。僕は銅像ですからいつまでもここにいて、

王子 あっ！

王子 という間に人間は生まれて生きて死んでまた生まれて。

王子 あっ！

王子 という間に、どれだけの時間が過ぎたことでしょう。

王子 ここね、眺めがいいんです。この町、ぜんぶ見渡せる。今はね、ピッシヤリと扉も窓も閉めてしまった家が多くなりました。それでも休日になればそここで賑わいの声が上がります。お祭りの時なんて楽しくて僕も踊りたくなるくらい。踊れませんが。銅像だから。

王子 今までだってね。栄えて衰えて栄えて衰えて、何度も繰り返して。人の一生はあっというま。風と木々と山と空は永遠。

王子 僕はぜんぶここから見てきました。銅像ですから。これからもここに立つて見ているので、よろしく銅像。

なぜかコーラス隊たちが拍手をしてくれた。

王子、照れて、ぺこりとおじきした。

ばさささ。

王子の頭に乗った王冠から、ツバメが2羽、飛び立った。

王子 実はね、僕の頭の上には、毎年毎年、ツバメ一家が住むようになっていくんです。

飛び立ったツバメが、
小枝やら葉っぱを嘴にくわえて。

王子 ご存知ありません？ ツバメが王子のお願いを聞いて宝石を運ぶってあ
の話。あれは昔々の外国のお話。

そのうち王冠が、
年季の入ったツバメの巣に、
変わっていく。

王子 僕が町の人に届けるのは宝石ではなくてね、

王子の頭に乗かった、王冠の代わりの巣から、

王子 お？

ぴよこんと、

王子 夏が終わり秋になり、そろそろ渡り鳥の旅立ちの時ではありませんか？

数羽のツバメが顔を出した。

王子 寒い冬を超えて、南の島へ。

3 王子とツバメ

母ツバメ んまあ王子、大変お世話になりました。

王子 なにをおっしゃいますか、母ツバメさん。こちらがお世話になっているんです。ありがとうございます。

父ツバメ いやしかしこの仕事はツバメ冥利に尽きますよ、王子。

王子 父ツバメさん、たくさん働いてもらって恐縮です。

母ツバメ やりがいのあるお仕事でしたわ。

父ツバメ しかも報酬が、安全な王冠の中に巣を作ってイイってんですから、

母ツバメほんと、なによりありがたい。

父ツバメ ツバメ界では、王子と名のつくモノには近づくなんて言い伝えが古くからありますが、

母ツバメ あなた、わざわざそれ言わなくても、

王子 昔、アイルランドあたりの国で、王子からの頼み事で過労死したツバメがいたそうなんです。

母ツバメ あら、あの噂はやっぱり本当で？

王子 はい。なのでそれからは、ツバメの皆さんには無理をさせず、きちんと労働契約書も取り交わすのが今現在のスタンダードですので。

父ツバメ 時代だな。

母ツバメ 時代よ。

王子 冬になる前には必ず出発させる。これが絶対条件です。

父ツバメ 来年の春にはうちの子たちの誰かが必ずこの巣に戻ってきますので、

母ツバメ どうぞよろしくお願いします。

父ツバメ 仕事のやり方は叩き込んでるんで、安心してください。

母ツバメ 王子。

王子 はい。

母ツバメ 旅立つ前に一つ質問してよろしい？

王子 もちろん。

母ツバメ アイルランドの王子は、確かご自身が身につけていた宝石を、貧しい

町の人たちに配ったと、私たちツバメの間ではそうなっておりますの。

王子 ええ、おっしゃるとおり。

母ツバメ なのに王子はどうして、宝石ではなく、その、

王子 僕からの手紙なのか……？

母ツバメ ええ、だって人間ってバカみたいにお金が大好きでしょ？

王子 アイルランドの王子の結末をご存知で？

父母ツバメ いいえ。

王子 宝石をもらって裕福になった町の人々は、みすばらしくなった王子の銅像をゴミ箱に捨てました。

父母ツバメ キュイ！！？

王子 寒い冬の空を町の人々のために飛び続け、息を引き取ったツバメの遺体とともに。

父母ツバメ キュキュイ！？

王子 僕はね、考えたんです。裕福が悪いわけじゃない。宝石が人の心をくらますわけじゃない。ただ足りなかった。

母ツバメ 何がですか？

王子 言葉。

父ツバメ ことば？

王子 この心のうちをあらわす、言葉。

ざあっと、ツバメの群れが空を覆った。

王子 ほら、仲間たちが呼んでいますよ。あなた方のご両親にも、そのまたご両親にも、そのまたまたご両親にも、本当にお世話になりました。毎年、毎年、手伝っていただいて本当にありがとうございます。

子どものツバメたちが、キュイキュイと鳴いた。

王子 気をつけて南の島に行ってらっしゃい。そして来年、君たちのうちの誰かが、僕と一緒にこの仕事をしてくれたらうれしいです。

ツバメ一家は、礼儀正しく御礼をして、飛び立った。

王子 ああ、たくさんのツバメたちが飛んでいきますね。

空には、飛んでいくツバメたち。

王子 さて。これから冬の間はじつくりと町を観察しましょうか……ん？

モゾリ。

巢の王冠が動いた。

王子 んん？

モゾリモゾモゾリ。

ぴよこ。一匹のツバメが顔を出した。

ツバメ キュイ。

王子 君は、

ツバメ キュイ。

王子 一緒に旅立たなかったの！？

ツバメ キュイ。

王子 お母さんたち、探してるよ、今なら間に合うから、ほら、飛んで！

ツバメ キュイキュイ。

王子 イヤイヤ、じゃないよ。ツバメはね、暖かい場所じゃないと生きていけないんだから。

ツバメ おで、そのジョーシキをこえてやるんだキュイ。

王子 常識じゃなくて生態系だからこれはっ……んっ？

ひとりのご婦人が、ふらふらと、

まるで倒れ込むようにベンチに座り込んだ。

王子 いつものご婦人……

ツバメ キュイ？

王子 ああ、そうだった……！ このご婦人のための手紙を、ああ、うっかりしていた！ 出し損ねていた！

ツバメ おで、いくぜ。

王子　だめです。君は南の島へと飛びなさい。

ツバメ　ぶゆーでん、つくるぜキュイ。まかせろキュイ。やってやるキュイ。

王子　ぶゆーでんなんてもう時代遅れです。

ツバメ　おーじよ。みろ。

ツバメ、空を見た。

ツバメ　ツバメ、いっぱいいる。おで、いなくていい。

王子　違います。君はこの世界でたった一羽。

ツバメ　ダディもママも、おで、いない、きづいてないぜ？

王子　それは、うっかりして、誰でもうっかりする。

ツバメ　おでがおでであるために。

王子　尾崎豊みたいなこと言うんじゃないま、ん？

はああああ……と、婦人が重たいため息をついた。

王子とツバメ、婦人を見た。

婦人　なんだったのかしらね、私の人生。

婦人、立ち上がり、王子の靴に手を置いた。

婦人　今まで、いろいろここでグチこぼしてきたけど、それも、もう本当にそろ

そろ終わりそう……

王子　なんと……

婦人、疲れた顔で去っていく。

ツバメは婦人を見送りながら、

王子　なんとご婦人よ、それはどういうことか……！

王子、じっとツバメを見た。

王子 ……1回だけ、頼んでもいい……？

ツバメ とどける、それ、おでたちのしごと。

王子 1回、1回だけだから、本当に、これ契約違反じゃないから、まだ秋の初めだから！

ツバメ キュイ。

王子 父ツバメと母ツバメの仕事、見てたから、できる？

ツバメ キュイ。

王子 えとね、まず市役所に行つて、たくさん文字が書いてある紙を、何枚かひよいとくちばしに挟んでここに持ってきて。そしたら僕がいう文字をちぎつて、

ツバメ それをごはんつぶでひつつけて、

王子 そう。ひともじ、ひともじ、並べて、

ツバメ しつてる。キョーハクジョーみたいだって、ダデイ、いつてた。

王子 的確だけど傷つくよ、父ツバメ。
ツバメ そんでとどける。おーじのほうせきをとどける、しごと。ほうせきは、ことば。おで、しつてる。おで、とぶ。

♪翼をください♪

いま わたしの願いことが

叶うならば翼が欲しい

この背中に

鳥のような

白い翼つけてください

この大空に翼を広げ

飛んでゆきたいよ

悲しみのない自由な空へ

翼はためかせ

行きたい

♪

ツバメは飛んだ。

4 まちのエピソード1／初老と婦人

初老 ど、ど、ど……！

初老が、ブルブルと震えた。

婦人 どうなさったの。血管ブチギれますわよ。

初老 会議に行ったら、席がなかった……！

婦人 そりやそうですよ。65歳以上はもう引退って決まったじゃないの。

初老、驚きの顔で婦人を見た。

初老 初耳だっ……！

婦人 決まりました。先月のネイバーフッドアソシエーション、通称NVAで。

ほら、これその回覧板。

初老 横文字を使うな！ 正しくは町内会だ！

婦人 名称も変わったってこれも決まったじゃないの。

初老 そんなもん俺は認めてない！

婦人 決まっちゃったもんはしょうがないんです。

初老 65歳からがある意味始まりだろうが。

婦人 あなた、時代ですわ。

初老 これからの未来のためにさらなる尽力を、

婦人 今までお疲れ様でした副会長、の色紙よ、あなた。

初老 この間、やつと先代の町内会長が天国行っただ。今からがやつと俺の、

婦人 ああ、くだらない。

初老 なん！？

コツコツ。

初老 ……ツバメ？

窓ガラスを叩く。

初老、窓ガラスを開けた。

ひらり。初老の手のひらにひらり。

初老　なんでツバメが、なんだ、最近、こういうの流行ってるのか……

初老はそれを読む。

そして、

初老　お前……

婦人を見た。

婦人　なんですか？

初老　これは、お前のことか……？

婦人　え？

初老、紙切れを婦人に。

婦人　まあ……脅迫状みたい。

初老　そこじゃない！

キュイキュイ。

ツバメが必死に鳴いた。

婦人　あなた、ツバメちゃん、これは誰からのお手紙？

キュイキュイ。

ツバメは飛び立つ。

婦人はツバメの飛んでいく先を見つめた。

婦人　あら、まあ……

ツバメが飛んで、そうして王子の肩に止まったのを婦人は見た。

婦人 ほんとに？ え、そんなことつてある？

初老 なんだ、なにを言ってるんだ！ なんも分からん、分かるようにちゃんと、

婦人 病院の帰りに、いつもあのベンチで一休みするんです。

初老 病院に行ってるなんて聞いてないぞ。

婦人 言ってますんから。

初老 なん！？

婦人 あのベンチで愚痴るんです。私の顔色が悪いことさえ気づかない無能野

郎だ、とか。それをあの子、聞いてたの？ ええ、本当に、そんなことが、

初老 顔色が、悪い……

婦人 すごいわあ、誰よりも見てるし聞いているのねえ、銅像なのに。

初老 ここに、書いてあることは本当なのか。

婦人 ええ、もう私、手遅れですの。

初老 なんでもっと早く言わないんだ！

婦人 あなたに聞く耳があるなんて思いもなくて。

初老 あるだろう耳くらいここにっ！

婦人 じゃあ、よくかつぼじって聞いてください。せめて、私の命が尽きるまで

は、私と一緒に過ごしてください。

初老 お前、

婦人 そんなに長くはありません。

初老 お前……

婦人 1年も保ちはしません。1年くらい、いいでしょう。あなたと私の人生が重なってきた45年のうちの最後のたった1年くらい、真剣に私と向き合ってたって、いいじゃありませんか。

初老は、うずくまるしかない。

婦人 ああ……言えた……やっと言えたわ……

婦人は王子とツバメを見た。

婦人 手伝ってくれたのね。ありがとう。

♪

この大空に翼を広げ

飛んでゆきたいよ

悲しみのない自由な空へ

翼はためかせ

行きたい

♪

5 王子とツバメ

王子　ありがとう。ツバメくん。今年のお手紙は全部出したと思っていたのにうつかりしていて、助かりました。さあ、もう行きなさい。

ツバメ　……

王子　ツバメくん？

ツバメ　おーじよ。ありがとうって　なんだ？

王子　ありがとうは、感謝です。

ツバメ　かんしやって、なんだ？

王子　ええと、ええとですね、

ツバメ　みなみのしまか。

王子　え？

ツバメ　なんか、おで、あったかい。

王子　僕は、銅像ですから、心臓も鉛ですから、その暖かさは、わかりませんが……そうかもしれませんね。

ツバメ　このあったかいの、

王子　はい？

ツバメ　ダディとママからは、おで、おそわってない。キュイ！

と、その時。

6 まちのエピソード2／往路と帰路

トランクを持った二人。

往路と帰路。

王子の銅像の下で、
ばったりと、再会した。
思わず同時に。

往路・帰路 あっ……！

互いのトランクを見て、
相手の顔を見て、また同時に。

往路・帰路 なんでなんでなんで！？

お互いに驚いてまた同時に。

往路・帰路 そっちこそ、いやそっちこそ！ そっちじゃねえわ、だからそっち！

思わず、笑ったら、
風が吹いた。

帰路 風……

往路 風くらい吹くつしよ。
帰路 匂いが違う。

ベンチに座る。

帰路、大きく息を吸い込んだ。

帰路 緑と水の匂いがする。

王子とツバメはこの二人をじっと見た。

往路 きつしよ……！

帰路 俺的にはエモい。

往路 たまに遊びに来る都会の人が言いそうでキモい、あ、そつか、もう都会の人だからか。なに？ 秋休み？ 冬休みの前倒し？

帰路 やめた。

往路 ん？

帰路 都会の人、やめた。

往路 えっ！？

帰路 本気で帰ってきた。

往路 お前が？

帰路 俺が。

往路 あんなに沸いていたのに？

帰路 若かったんだよ。

往路 たった5年で？

帰路 俺らの歳で5年はデカイよ？

往路 そこは賛同してやるわ。

帰路 10代なんて青くて若くて甘いね。

往路 ビッグマウスは健在か。ヒルズに住むとか言ってたよね。

帰路 ヒルズは無理だったけど、小ヒルズには住んだよ。

往路 なんだ小ヒルズって。

帰路 武蔵小山。悪くない町だった。

往路 ザクザク稼いでふるさと納税してやるわ、とかクソほざいてたよね。

帰路 地元納税に変えたんだよ。

往路 ここで何の夢見ろってんだよ、とかクソ文句言ってたよね。

帰路 時代は変わって地方創生的な、

往路 お前だけ10年の時差が起こってんのか。地方創生のはじまりは201

4年くらいに遡るからな。

帰路 時は飛ぶように過ぎていきやがるぜ。

往路 で、ホントは何がうまくいかなかった？

また、風が吹いた。

帰路 風……

往路 だから風くらい吹くつしよ。

帰路 だから匂いが違う。

往路 匂いなんかする？

帰路 お前が気づかないだけ。

往路 なにその俺は変わったんだぜアピールは。

帰路 うまくはいった。

往路 はいはい。

帰路 バイト先が渋谷だよ？

往路 ニュースによく出てくるあの交差点歩いてたわけだ。

帰路 Uberも掛け持ちして。

往路 Uberって本当に存在してんだね。

帰路 地下アイドルのビラもらったりしてライブ行って、

往路 案外パリピだもんな。

帰路 ハロウィンも行ったし、

往路 あれ楽しいの？

帰路 楽しくて虚しい。

往路 ……イマヨン思い出せないんだけど？

帰路 何が。

往路 イマヨンを突っ込め。

帰路 突っ込むの体力いるから話つづける。

往路 結局、何しに行ったんだっけ？ こじや夢見れねえわつつて、じゃどんな夢持って、ここ出ていったんだっけ？

帰路 思うに。ここじゃないところに行くのが、夢だった的な？

往路 じゃ、叶ってんじゃん。なんで帰ってきた？

帰路 風が、吹かなくて。

往路 吹くでしょ、風なんかどこだって。

帰路 そうじゃなくてそうじゃなくてそうじゃないから……

往路 どした……？

帰路 5年間、突風ばっかで嵐ばっかで、

往路 どの天気予報それ。5年間ずっとなわけないつしよ、

帰路 だから天気じゃなくて……！

往路 なにどういうこと？

帰路 台風みたいに過ぎてく……時間が、早くて、強くて、それが、楽しいんだけど……

往路 けど、

帰路 ……

往路 虚しい……？

ふいに、ツバメが王子の銅像からパッと飛んで行く。

それを目で追いかけた帰路と往路。

帰路 知ってるって思ってた。

往路 何を？

帰路 今はいくらでも、情報、手の中だし、距離なんてあつてないようなもんで、往路 スマホ便利だもんね。

帰路 行った気になるくらい見てたけど、だめだわ。スマホで見てるだけじゃ、あんな突風みたいな町のこと、ワカンねえわ。

往路 じゃあ「俺サイコー」みたいな顔してたsasは、ぜんぶウソだったんだ。

帰路 あんなみんなな嘘で笑える。

往路 え、みんなも？ はまじとか、

帰路 きよたかとか？

往路 たつみも一緒に行ったっけ？

帰路 みんなは、突風が合ってるって……だからお前は一回戻って、

風が吹いた。

そよそよと。

帰路 ……ああ……風だ……息がしやすい……

往路 合う合わないは、あるんじゃない？ 場所って、土地って、なんか、生きてるって思うもん。人がいるし、相性、絶対ある。

帰路、じつと往路を見た。

帰路 お前は、

トランクを見た。

帰路 秋休み？ 冬休みの前倒し、の旅行、とか？

往路、トランク持って立ち上がる。

不意に、ツバメが戻ってきた。

クチバシには白い紙をくわえて。

往路 入れ替わり。

帰路 つてことは、

往路 お帰りなさい。で、行ってきます。

帰路 お前が……！！？ え、どこに、

往路 あたしは五反田。

帰路 あ、なんか安心したぞ。代々木上原とかだったら負けた感じが、

往路 相変わらずちいせえなあお前は、あ。

帰路 え？

往路 思い出した。あたし、あの時、目覚まし時計プレゼントした！

帰路 俺が行く時？

往路 うん、だからそのサングラスちようだい。

帰路 マジか、いや待て、これ高いから！

往路 時計も高かったよ。

帰路 待て待て待て待て。

帰路、往路を再び座らせる。

ツバメは紙をクチバシでつついて千切る。

往路 え、なに、なに？

帰路 なに、じゃねえ。「ここにいるからこそそのあたし」とか言ってたくない？

往路 うん。そうだったんだけどねえ。

帰路 けど？

往路 山の中で走り回ってばっかじゃられないみたいで。

帰路 なんそれ。

往路 うん、なんか、なんかね、なんかさ、

帰路 さっさと言えって。

往路 あたし、お山と緑と空と太陽と夕陽ばっか見てて、あんま人間見てなかった。

帰路 だからここに居るんだろ？

往路 クソヤなやつと思わないでよ。

帰路 心配すんな、ヤな奴認定ならとつくの昔に済んでる。

往路 そっか。なら言っちゃうね。

帰路 うん。

往路 子どもんころは、はみ出しまくりでもみんなウケてくれてたのに、この歳になつてくると、なんかはめてくんの。

帰路 え、何を、どこに、はめるって？

往路 あたしって人間を、この地域専用のカスタマイズしてくんの。

帰路 カスタマイズ完成したらどうなんの？

往路 ここで役に立つ人間になれんの。

帰路 めっちゃいいじゃん。

往路 うん、てことは、てことはだよ？ ハマれないと、カスタマイズ完了しない、役に立たないと、ここには居られない……ってことなんだあって、気づいてしまった2024、みたいな。

帰路 なんかにワツクぜ……

往路 うん、だからね、役に立ってる人のことじっと見てみたの。

帰路 誰？

往路 お母さん。ほんとマジちゃんとしてんの。お前んとこのお母さんだってきつとそうだと思うけど、

帰路 仕事行って、

往路 家のことやって、

帰路 俺らの弁当作って、

往路 介護までして読み聞かせもして草刈りして、

帰路 ため息ついても全部やっちゃう。

往路 私の未来ってこれか。

帰路 え？

往路 お母さんの言うこと聞いてたら、あたし、お母さんみたいになっちゃうし、お父さんの言うこと聞いてたら、お父さんみたいな人とケツコンすんだ。

帰路 お前、結構エグいこと言うな。それがヤだと？

往路 つーか、疑問？ 隣みても、その隣みても、似たような感じで、あんまり他のモデルケースも知らない。

帰路 それでこれ？

往路 思いつき反対のベクトルに振り切ってみるかって。

帰路 野生児のお前が五反田。

往路 離れてみたら、見えていなかったことが見えてくるかもなって。

帰路 それは、ある。

往路 経験済みか。

帰路 住んでみたら、見えていなかったことが見えてくる。

往路 かも。

帰路 とか言って、5年後、また入れ替わってたりする、

往路 かもね。

帰路 あ、

風が吹いた。

帰路 風？

ひらり。

帰路 なんそれ。

紙切れいちまい。

往路、手に取った。

「なにを、えらんでも、えらばなくても、
なにを、しても、しなくても、
きみにはかちがある」

往路、帰路、紙の道筋を想像してみた。
見上げると、王子がいる。
ツバメがキュイキュイ鳴いた。

往路 まさか？

帰路 の、まさか。

往路 なわけないっしょ。

帰路 ないけど、

往路 なんこれ。

帰路 なんそれ。

往路 あっ！！

帰路 びつくりしたあ、なに？

往路 これあたしがもらっていい？ その代わりあんたのグラサンは我慢して
やろう。

帰路 グラサンなんかよりそつちのがよっぽどいいだろ。

往路 え、やっぱそう思う？

帰路 思うよ。

往路、帰路をじっと見た。

往路 こーゆーこと、誰かに言われたことある？

帰路 あるならこーなってねーな。

往路 そっか。

帰路 お前は？

往路 あるならこーなってねーわ。

帰路 なら、俺が言ってやる。

往路 やめろ！

帰路 いいや、言ってやる。今、言ってやる。

往路 言うな、クソ恥ずいから！

帰路 言ってやるから、大声で。

往路 もう行く！

往路、トランクを持って、

帰路 お前が何を選んでも選ばなくても、

往路、走り去る。

帰路 お前が何をして、しなくても、

もう往路の姿は見えない。

帰路 お前には価値がある……！

帰路は、大声で叫んだ。

遠くから、微かに聞こえた。

「お前もな」

という、往路の絶叫が、聞こえたかどうかは分からないが。

帰路は、笑って、そして自分の家へ帰って行った。

7 王子とツバメ

ツバメ ひかた。

王子 え？

ツバメ きらり、ひかっただ。

王子 助かりました。ありがとう、ツバメくん、さ、早く南の島へ、

ツバメ にんげん。おもしろい。

王子 はい。僕もそう思います。ここからズウつと見ていると、毎日毎日、いろんなことが起きます。ツバメくん、来年の春には、君がここに戻ってきてください。そして僕と一緒に、この町の仕事をしましょう。僕の頭の上で暮らして家族を作って、この面白い仕事を君の子どもたちに引き継いで、次の春、またその次の春も、

ツバメ おで、はんしよくキョーミない。

王子 えっ！？

ツバメ それはおでのキョーダイたちにまかす。

王子 ちよつと思ってる流れと違う！

ツバメ おで、かのーせーをついきゅーするツバメになるキュイ。

王子 無謀です。ツバメは冬は越せないんです。

ツバメ しんかのはじまりは、いつもむぼー。

王子 え？

ツバメ ツバメはたくさん、いる。でも、おではおで。ツバメのじょーしき、こえて、かのーせーをついきゅーして、おで、ツバメをしんか、させる。

王子 君は、

ツバメ むりとおもったらむり。

王子 なんだか、

ツバメ ずつとおなじはたいかのはじまり。

王子 ツバメつぽくないですね。

ツバメ よく、いわれる。ツバメらしくない。

王子 あ、すみません、決してBADな意味では、

ツバメ ツバメのせかいでは、ばっど。つばさなみ、そろえられない。

王子 ……足並みのこと？

ツバメ でもきにしない。おで、じぶん、しんじてる。おで、でんせつのツバメ

になる、キュイツ……!!？

ツバメ、ハッと顔を上げた。

王子 どうしました？

ツバメ キュイキュイキュイキュキュ！ きけん。

王子 なにが、

ツバメ やせいのほんのー。

王子 何か察知したんですか？ 何か起こるんですか？災害とか？

ツバメ にんげんのおい……

王子 しますね。ここは人間の町ですから、

ツバメ しんかのおいか、たいかのおいか。

王子 ツバメくん、それはどういう、

その時、ベートベンの交響曲第五第一楽章「運命」が響いた。
ダダダーン！

8 Meeting

どこかと乱暴な足音。

お髭の議員たちがやってきた。

議員2 「そりやサテライトオフィスの誘致でしょう」

議員3 「それよりも集住です。住むところを集めるんです」

議員4 「コンパクトシティで失敗した自治体は数えきれないほですよ」

議員5 「だけどIターンは成功しているじゃないですか」

議員6 「それがそうでもないんです」

議員たち、ハッと多賀議員を見る。

議員6 「単純に、入ってきても、そもそも出て行く人数に追いつかない」
議員 「もうゆるやかに消滅するしかないんでしょうかねえ」

再び、ダダダーン！

議員1 「諸君。イメージだけでは無理です」

議員たち 「イメージつつったじゃん」

議員1 「時はすぎゆき、基準はいつだって変わる。必要なのは具体性」

議員4 「はい」

議員たち 「はい」

議員4 「人口が増えりや成功つてのは、実はもう古い考え方らしいです」

議員たち 「なんと」

議員6 「じゃあ何を目標にすりゃいいんだ」

議員1 「情報だ、情報が欲しい、やはり専門家を呼ぶべきだ」

議員3 「はい」

議員たち 「はい」

議員3 「外部のコンサルタントに丸投げは失敗のもとです」

議員2 「はい」

議員たち 「はい」

議員5 「やはり人材育成でしようか」

議員6 「いや、地域ブランドでは？」

議員4 「まずはネットワークでしよう」

議員2 「テクノロジー導入が最優先か？」

議員1 「それらひっくるめてまずなによりも」

議員たち 「なによりも？」

議員1 「資金が足りない……」

「運命」は鳴り響き続ける。

王子の銅像はひきずり下ろされ、

議員たちは王子が身につけているものを剥がし始める。

ツバメ キュイ、キュイキュイ！

王子 イインです。ツバメくん。

ツバメ キュウ？

王子 僕の服は黄金、ボタンはダイヤ、短剣には色とりどりの宝石、お金があつた頃に作られたからまるでハコモノ行政なみに、贅沢の極みです。

ツバメ キュウ……

王子 僕はただ佇んでいるだけのよろしく銅像。今じゃもつたいないだけ。この町がよりよくなる為に、僕の全てが使われるのなら、幸せです。

ツバメ キュウキュウ！

王子 かまいません。僕の目は真つ黒な黒曜石。高価な石ですから。

ツバメ キュイ！

王子 この町をもっとよりよくするために、人々のために、どうぞ神様、私をお使ってください。

ツバメ キュイキュイキュイイイイ……！！

人間にはキュイキュイとしか聞こえない。

議員1 なんだ、このツバメ。

議員1は、ツバメを乱暴に払いのけた。

ツバメ キュイツ……！

へちやつとツバメは地面に落とされた。

議員2 「この銅像はどうしますか？」

議員1 「とりあえず次の町の動きが決まるまでは」

議員3 「このままというのも」

議員4 「見栄えがどうもねえ」

議員5 「業者に連絡して撤去させましょうか、年内には」

議員6 「年明けになるんじゃないですか？」

議員5 「いやしかしお金かけて作られましたねえこの銅像」

議員4 「過去の遺産に助けられるとは」

議員1 「これを未来のために」

議員たち 「未来のために」

お髭の議員たちは、

王子から剥ぎ取った金銀財宝を抱えて去っていくと、

「運命」の響きが、ぴたりと止んだ。

9 ツバメ、冬を飛ぶ

しいんと静か。

目がなくなり、

裸同然になった王子をツバメはじつと見つめ、
ツバメはつぶやいた。

ツバメ おーじのくろいめこのまちみてた。

ツバメ そんなのにんげんにはかんけーない。

ツバメ にんげんのめとどかない、にんげんからこぼれたにんげんに、

ツバメ おーじ、ことば、とどけてた。

ツバメ そんなのにんげんにはかんけーない。

ツバメ これはたいか、かな。

ツバメ しんか、かな。

王子 ツバメくん。

ツバメ キュイ……

ツバメは、王子のなくなった目を翼で撫でた。

王子 僕はね、ちよつと信じているんですよ。

ツバメ キュウ。

王子 世界はね、良くなるようにしか進まないって。

ツバメ おーじのめをうばうにんげんでさえもか？

王子 だって僕はただの銅像ですよ？ 心臓も鉛で出来てるんですから。

ツバメ　こんなにぼろぼろ。

王子　ただのモノに涙する人間はいませんよ。

ツバメ　おで……いま、あたたかくない……

王子　大丈夫です。悲しい今も、いつかの未来の何かにつながりますから。

ツバメ　おーじよ。としあけてなんだ？

王子　としあけは1月。つまりそれが僕の終わりってことです。

ツバメ　おーじのおわりまで、おで、とぶ。

王子　1月は冬真っ只中ですから、労働契約書の絶対条件として、

ツバメ　べつにまもってもらわなくていい。

王子　え？

ツバメ　じぶんの、ツバメせいくらい、じぶんで、きめる。

王子　あ、ツバメの人生ってことですね？

ツバメ　ツバメはたくさんいる。おではおでしかない。どんなふうにいるか、おでがきめる。

王子　君は、

ツバメ　おではおでのためにいのちをつかう。

王子　本当に……ツバメらしくないですねえ。

ツバメ　おで、おーじのめになる。だけどおーじのせいにはぜったいしない。

王子　僕の？

ツバメ　きめた。

王子　だけど、

ツバメ　そんで、ふゆこえる、いちわめのツバメになる。しんかするツバメが、おでだ。

王子　しんか。

ツバメ　いままでにないものは、ぜんぶ、しんかだキュイ。

王子　そこまで言うのであれば、

ツバメ　いうぞ。

王子　君の信念に負けました。

ツバメ　キュイ！

王子　生きているものは皆、進化できるんですね。いいなあ……

♪ 「Doubt and Fly」

飛べるよ

きつと

その一步を

恐れなければ

飛べるよ

君も

ほんの少し

疑えたのなら

できないって

信じたのは誰

しかたないって

信じたのは誰

無理だろうって

信じたのは誰

顔を上げろ

大地に踏ん張れ

手を広げて

飛ぶなら今だ

疑ってみろ

どこまでも

飛べるよ

きつと

その一步を

恐れなければ

♪

ツバメは、

王子 僕の目となって、飛ぶ。君が見ている風景が、僕にも見えました。流れる川、曇り空、雨の色、太陽の明るさ、笑っている子供、泣いている子供、笑っている大人、泣いている大人……

飛んで、

ツバメ じぶんの、ツバメせいくらい、じぶんで、きめる。

王子 冬の空に、ツバメが飛ぶ。ありえない一步を踏み出しましたね。

飛んで、

ツバメ ツバメはたくさんいる。おではおでしかない。どんなふうにいるか、おでがきめる。

王子 だけど進化は、長い時間がかかるのです。

飛んで、

ツバメ おではおでのためにいのちをつかう。

王子 君の後をつづくツバメが、これからあらわれるのでしょうか。

やがて飛ぶ速度をゆるめ、

王子 行きなさい。と、言うべきだったのでしょうか。やはりいつものように恐れるべきだったのでしょうか。進化など夢みずいつも通りの方が、正しかったのでしょうか。

王子の手の中に落ちた。

王子 分かりません。何が正解なのか、何が、過ちなのか……

♪
できないって

あきらめたのは誰

しかたないって

あきらめたのは誰

無理だろうって

あきらめたのは誰

♪

王子 進化は……長い時間がかかるのです……君の後をつづくツバメが、あらわれなければ……

♪

信じてみる

どこまでも

飛べるよ

きつと

その一步を

恐れなければ

♪

王子 僕は……自分が、疑わしくなってきた……

王子 僕は、この、町のためにと、ズウつと見つめ続け、言葉を届け、それが、

良いことだと……せめて誰かの心が、軽くなればと、できるだけこの町のた

め、人々のために……

王子 本当だろうか……

王子 君の信念をいいことに、もしかしたら僕は寒い冬を一人で越したくなか

っただけかもしれない……君がそばにいてくれることが、ただ嬉しかっただけかもしれない……分からなくなってきた……

王子 僕は……自分の幸せのために君を……？

王子 アイルランドの、あの王子も、こんな気持ちだったのでしょうか……痛い……鉛の心が、鉛なのに、痛い……

王子、冷たくなったツバメを抱きしめた。
風が吹いた。

どこからか、陽気なクリスマスソング
「ジングルベル・ロック」(Bobby Helms)
のメロディが聞こえはじめた。

10 まちのエピソード3／臨月と王子

マフラーとコートに身を包んだ臨月が歩いてくる。
クリスマスソングはそのうち、

「ゆき」のメロディへと変化して。

臨月、王子の銅像を見上げた。

臨月 お久しぶりです。

王子 やあ……君は……

臨月 こんなことになってるなんてなあ。

王子 もう僕も終わりです……疲れました……

臨月 銅像でも風邪とかひくのかな。

王子 体も心も鉛、なのに、冷たい……

臨月 なんか顔色青くない？

臨月はがさりと、

臨月 身包み剥がされたって聞いて、持ってきた。

袋から何かを取り出した。

臨月 ヒートテック。

王子は思わず笑った。

臨月 スゴ衣の方がよかったかな。

王子 ありがとうございま……君、もしかして？

臨月 立派でしょ。このお腹。臨月だから戻ってきたの、って言っても隣町から。

王子 なんとそれは、おめでとうございます。

臨月 この私がねえ。

王子 驚きです。

臨月 王子のおかげ。

王子 何もしません。

臨月 高校生の私を助けてくれた。

王子 ただ立っていただけです。

臨月 あの手紙、腹巻に入れて巻いてんの。

王子 なんとそれはとてもうれしい。

臨月 家にも居たくないし、学校にも行きたくない未成年って逃げ場なくて、

王子 遅くまでそのベンチに座ってましたねえ。

臨月 都会ってああいう時、暇つぶせるところがいっぱいあるんだろうなあ。

王子 冬のベンチは相当厳しかったでしょう。

臨月 でも私には、ここがあつたからね。

王子 今は幸せですか？

臨月 こんな未来があるなんて想像もしなかった。

王子 あの頃のあなたを思い起こせば、ほんとうにね。

臨月 文句言ってここから飛び出せる勢いがある奴らは幸せなのよ。

王子 それよく言っていましたね。

臨月 地元盛り上げたいって盛り上げられる奴らも幸せなのよ。

王子 それもよく聞きました。

臨月 こんなところ大嫌い。家は荒れてるし、あんなの母親って呼べないし、父親は最悪だし、山は絡まつてうざいし、同級生の男子はみんなバカだし、女子は卑怯だし、大人は嘘つきで、祭りのたんびに聞こえてくる太鼓はうるさいし、焼きそばの匂いとか、笑い声とか、歴史文化歴史文化ホントうっさいって、そういうのを樂しめない私は人として終わってる……って……また自分を責めて疲れる……起き上がれなくなる……どこにもなんも馴染めないのは、私が一番最悪でバカで卑怯で嘘つきだから……こんなところに居たくない……でも他に行きたいところなんてない……

王子 君はね、このベンチで泣いていたから。ああ、そうなんだなって、気づけたんです。本当は……どのくらいいるんでしょうか。君のような誰か。締め切ったたたくさんの家々に、もしかしたらじっと黙って目を閉じているのでしょうか、いまもお。

臨月、腹巻から小さな紙を取り出した。

臨月 「大嫌いでも、愛していい」

臨月 私が母親に愛されないのは、嫌われてるからだって。私が誰も愛せないのは、ここの何もかもが大嫌いだからだって、

王子 いつも、つぶやいてましたねえ。

臨月 ツバメがさ、これ持ってきた時は、はあつつつ！？ って叫んで。意味おかしいだろうって、でも、今はもう分かる。

王子 はい。

臨月 自分で選んだから。

王子 はい。

臨月 とことん信じてみようって人と、ここで生き抜いてやる……って、腹決めたら、孕んだ。

アハっと、笑った。

臨月 誰かのせいにするのをやめたら簡単だった。

臨月は、

臨月 こんなところ大っ嫌い！

笑った。

臨月 だけど本当に愛してる。

11 終わりはやってくる

カツカツと、硬い足音がして、臨月は振り返った。

議員1 失礼。作業が始まりますので、危ないですよ。
臨月 作業？

裸の王子の銅像を見上げる議員1。

議員1 いや、時代ですよ。致し方なしですよ。町は再開発に着手するので、君にはここをどいてもらうことになりました。

議員1、ちよつと鼻で笑った。

議員1 と、言ったところで、たかが銅像。

議員1が「作業開始」の合図を出そうと、

議員1 撤去作業にとりかかって、

臨月 その前に王子に服を着せてあげて。

議員1 ……は？

臨月 ヒートテック。私、臨月だから高いところ登れないの。ほら！

議員1 レイデイ……その、大丈夫ですか？

臨月 いいからさっさと着せてあげて！

議員1 落ち着いて。体に障ります。あなたのお腹には未来が詰まっているんですから。

臨月 風邪ひいちゃうじゃん。

議員1 あのこと…これ、銅像ですよ？

臨月 だからぼろぼろにしてもいいと？

議員1 あのですねえ、

臨月 私には想像力があるんです。

議員1 はあつ……！？

その時、王子に届け物を持ってきた人物が、またひとり。

初老 作業を、少くらい遅らせてもさほど問題はないだろう。

議員1、その声に振り返る。

議員1 副会長……！

初老 元、だ。

議員1 ええと、これは、その会議で決定しましたので。

初老 少し待ってくれと言ってるだけだ。今の流れに抗おうってわけじゃない。ただ、こんな剥き出しの体じゃあ切ないとあいつが、

議員1 は？

初老 あいつが持っていてやれと。

初老、王子に向き直って。

初老 手編みです。気に入ってもらえるといいんですが。

銅像にセーターを着せる初老。

議員1 え、ええ？ ちよつと、

そうしてまた、ひとり。

帰路 あの、

手にはサングラス。

帰路 なんか、これつけると、見えてるっぽくない？

議員1 いや、あの、

議員1は何かを言いかけるが、

気配を感じて振り返る。
と、

ひとり、またひとりと、
コーラス隊の人々が、王子に何かを持ってくる。
帽子だったり、
ズボンだったり、
ジャケットだったり、
傘だったり、
ネクタイだったり、
リボンだったり、
靴下だったり靴だったり、
あるいはお菓子だったり、
花束だったり、
ひとり一つ、王子に贈り物を届け、
王子に一礼をして去る。
議員1は驚きの表情でそれを見る。
最後のひとりが、やってきた。

往路 年末だから、帰省タイム。最後に会えて良かった。

白いハンカチを広げて、
王子の両手の中で眠るツバメにそっとかけた。

往路 ありがとうございます。

丁寧、王子に一礼をして、
往路も去る。
議員1だけが残った。
すっかり疲れたのか、
黙ってベンチに座った。

そして、

ポケットから小さく折りたたんだ紙を取り出す。

広げて、読み返した。

何度も読み返したのか、

その紙はボロボロ。

議員1、何かを思い出したのか、

顔を覆ってうなだれた。

王子 ツバメくん。

王子 君と僕の人生が重なったほんの少しの間、それは人間の時間というところという間です。

王子 どんな終わりであろうと、

王子 僕にどんな罪と過ちがあるろうと、

王子 僕は君といられて、幸福でした。

王子 それは紛れもない僕の真実です。

王子は、町を見渡した。

王子 罪と過ちがない生き物がいるでしょうか。いるのならば、それはもう進化をしないでしょう。する必要がありませんから、けれど進化は……長い時間がかかるのです……

王子 生きているものは皆、進化できる……

王子 いいなあ……

王子の銅像は人々の手によって、
ゆっくりと撤去され、

♪ 「Doubt and Fly」

飛べるよ

きつと

その一步を

恐れなければ

飛べるよ

君も

ほんの少し

疑えたのなら

できないって

信じたのは誰

しかたないって

信じたのは誰

無理だろうって

信じたのは誰

顔を上げろ

大地に踏ん張れ

手を広げて

飛ぶなら今だ

疑ってみろ

どこまでも

飛べるよ

きつと

その一步を

恐れなければ

できないって
あきらめたのは誰
しかたないって
あきらめたのは誰
無理だろうって
あきらめたのは誰

信じてみる

どこまでも

飛べるよ

きつと

その一歩を

恐れなければ

♪

次の春、

新たな一匹のツバメが、

かつて王子の銅像があった場所へと降り立ち、

キュイと鳴いた。

おしまい